

きこえない人

きこえにくい人

のための

震災時防災ガイド



左：一般財団法人全日本ろうあ連盟のマークです
 右：きこえが不自由なことを表す「耳マーク」です

地震が発生したときは

家にいるとき

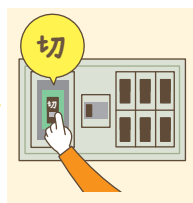
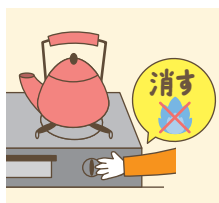
① 身の安全を確保・命を守る行動

- 頭を保護し机の下などに隠れる。



② 揺れがおさまったら

- 火を消し、ガスの元栓を閉める。
- 電気のブレーカーを落とす。
- スリッパや靴をはき、玄関のドアや窓を開け避難ルートを確認。



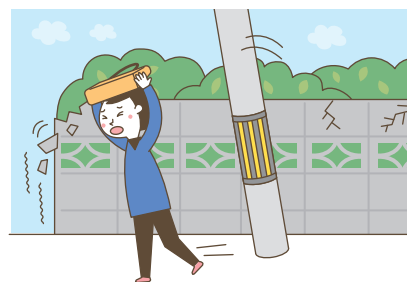
③ いっつき避難場所で安否を報告

- 非常持出品を持って、ブロック塀の倒壊や地割れに気を付け、指定された「いっつき避難場所」へ向かう。
- 自治会や町内会の防災担当役員や班長に安否を報告。

外出中

① 身の安全を確保・命を守る行動

- 建物・ブロック塀や電柱などから離れ、ガラスや看板などの落下物に注意する。



- 海や川の近くにいる場合は、津波の恐れがあるため、すぐに近くの高台(海拔5m以上)や頑丈な3階建て以上の高いビルなどに避難。

② 揺れがおさまったら

家までの距離※が遠く
帰れない場合

→「帰宅困難者一時滞在施設」に移動。

家までの距離※が近く
徒歩で帰れる場合

→安全に注意して帰宅。

※目安の距離：10km以内かどうか



自宅に
被害がない場合

自宅に戻る(在宅避難)

- 事前に準備した備蓄品で生活。
(詳細は2ページ参照)



自宅に被害があり
戻れない場合

地域防災拠点へ避難

- 地域防災拠点運営委員会の指示に従って行動する。
(詳細は3ページ参照)

在宅避難の準備はできていますか？

◆ 備蓄品の準備

家族の人数分を7日分準備


- 水(ひとり3リットル/日)
- トイレパック(ひとり5個/日)
- 食料(クラッカーや缶詰、日頃から食べ慣れたもの)



- 普段使う食料や日用品を少し多めに買い置きし、使った分を補充する「ローリングストック(循環型備蓄)」を活用すると無理なく備蓄できます。

◆ 非常持出品の準備

きこえない・きこえにくい人があると良いもののリスト

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 常備薬 | <input type="checkbox"/> 補聴器や人工内耳の予備電池 |
| <input type="checkbox"/> お薬手帳 | <input type="checkbox"/> 携帯電話用のモバイルバッテリー |
| <input type="checkbox"/> 障害者手帳 | <input type="checkbox"/> 笛・ブザー |
| <input type="checkbox"/> ヘルプマーク | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 |
|  | <input type="checkbox"/> コミュニケーションボード |
| <input type="checkbox"/> メモ用紙・マジック | <input type="checkbox"/> |
| | <input type="checkbox"/> |
| | <input type="checkbox"/> |



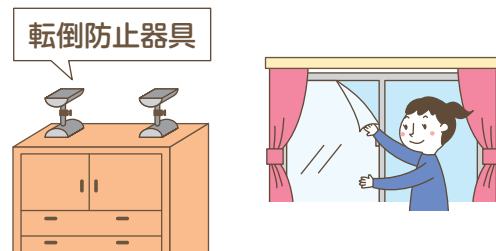
- 非常持出品は取り出しやすい場所に準備しておきましょう。
特に、補聴器やスマートフォンなど、情報を得るために欠かせないものは、常に身近な場所に置いておくことが大切です。

その他の備蓄品や非常持出品についてはこちら▶



室内の安全対策

- 家具の転倒を防ぐため、転倒防止器具でしっかり固定しましょう。
- ガラスの飛散によるけがを防ぐため、窓に飛散防止フィルムを貼っておきます。



自宅の耐震診断

- 横浜市では木造住宅の耐震診断を無料で実施しています。分譲マンションの耐震診断には補助制度があります。
- 耐震診断の結果、「耐震性が低い」と判定された木造住宅、分譲マンションなどには耐震改修費用の補助を行っています。

対象

- **平成12年5月末日以前**に建築確認を得て着工された2階建て以下の在来軸組工法の木造住宅
- **昭和56年5月末日以前**に建築確認を得て着工された分譲マンション



◀ 詳しい条件については、
建築局建築防災課へ
お問い合わせください



地域防災拠点とは

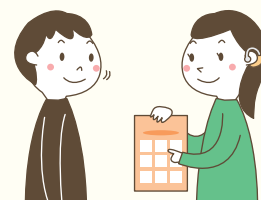
地域防災拠点は自宅に戻れない人たちが一定期間避難生活をする「避難所」としての役割を持つほか、在宅被災者への物資提供や情報発信など地域の支援拠点として様々な役割をになっています。

平時は自治会・町内会を中心に、学校関係者や行政と組織する「地域防災拠点運営委員会」が運営にあたっています。

災害時に実際に避難所として開設された場合には、避難者も運営に参加し、協力しながら避難生活を支え合います。

◆自分の状況と必要な配慮を伝える

- 地域防災拠点の運営者は配慮を必要とする人の所在を把握したいと考えています。「きこえない・きこえにくい」ことを運営者や周囲に伝え、必要な配慮を具体的に伝えましょう。
- このパンフレットの4ページなどに必要な配慮を事前書き込むとスムーズに伝えられます。
- 地域防災拠点にはイラストを指さして意思を伝えられるコミュニケーションボードが準備されています。



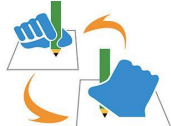
コミュニケーションの方法を示すマーク/オリジナルコミュニケーションボードの作成

必要とするコミュニケーションの方法を示すマークがあります。

手話/筆談で対応できることも示します。



▲手話マーク



▲筆談マーク

セイフティーネットプロジェクト横浜が作成したコミュニケーションボード・カード作成ソフト(Windowsのパソコンのみ使用可能)では、一人ひとりの状況に合わせてイラストを配置し、オリジナルのコミュニケーションボードを作成できます。

コミュニケーションボード 横浜市 検索

◆「お手伝いできること」を伝える

- 地域防災拠点では全員が運営に協力します。「きこえない・きこえにくい人ができること」を知らない人も多いため、自分から得意なことやお手伝いできることを伝えましょう。協力し合うことで、安心・快適な避難生活ができます。



地域防災拠点の訓練に参加しよう

毎年秋を中心に地域防災拠点運営訓練を実施しています。

日頃から地域の人と顔の見える関係を築き、積極的に参加してみましよう。

詳しくは
こちら▶



自分の情報

氏名	(フリガナ)	生年月日	年 月 日
住所	〒		
電話番号 (FAX)		メールアドレス	
緊急連絡先 ポイント 連絡方法を決め、 メモや携帯電話に登録	(フリガナ) 氏名	電話番号 (FAX)	----- メールアドレス
	(フリガナ) 氏名	電話番号 (FAX)	----- メールアドレス
加入している 自治会・町内会			
いつとき避難場所 ポイント 災害時に備えて、 避難場所や避難経路を 事前に確認	★自治会・町内会等の地域の人に確認	地域 防災拠点 	◀お住まいの地域の防災拠点は こちらから確認

ポイント

- 「聞こえないこと・聞こえにくいこと」を周囲に示す工夫をしましょう
- とおり近所や自治会の方と日頃からあいさつを交わし、無理のない範囲で自分の状況を伝えましょう

支援者に伝えたいこと

必要な コミュニケーション について	<input type="checkbox"/> 手話 <input type="checkbox"/> 筆談 <input type="checkbox"/> □の形がはっきりと見え、単語の区切りが分かるように話す <input type="checkbox"/> スマートフォンを用いた会話 <input type="checkbox"/>
話しかけるとき	<input type="checkbox"/> 肩を優しくたたく <input type="checkbox"/> 目の前で手を振る <input type="checkbox"/>
地域防災拠点での お願い	<input type="checkbox"/> 周囲の人に聞こえないことが分かるようなベストや腕章等を着用希望 <input type="checkbox"/> 放送だけでなく、目で見えて分かるよう掲示板やホワイトボードでお知らせする <input type="checkbox"/> 手話ができる人の呼びかけ <input type="checkbox"/>
その他 お願いしたいこと	



◀この情報をパソコンやスマートフォンで入力したい方は
こちらからファイルをダウンロードできます。
(入力したファイルはご自身のパソコンやスマートフォンに保存してください)

港南区役所 横浜市港南区港南4-2-10

高齢・障害支援課

FAX 045-845-9809 電話番号 045-847-8454
メールアドレス: kn-koreisyogai@city.yokohama.lg.jp

福祉保健課

FAX 045-846-5981

総務課

FAX 045-841-7030

【協力】

港南区防災懇談会
港南区聴覚障害者協会